

**弘前市協働によるまちづくり推進審議会 会議録概要（第2回）**

日 時	平成30年8月29日（水曜日） 18時00分～19時30分		
場 所	弘前市役所市民防災館3階防災会議室	傍聴者	3人
出席者 (17人)	委員 (10人)	佐藤会長、生島会長職務代理者、松本委員、小山委員、 鴻野委員、安田委員、八木橋委員、斎藤委員、 久保田委員、小野委員	
	執行 機関 (7人)	市民協働 政策課	佐藤課長、堀川課長補佐、中村係長、齋藤主査、 阿保主査、村上主事、菊地主事

会議概要

- 1 開会
- 2 議事

「市民等のまちづくりを支援する取り組み①」

【まちづくりへの関心が低い、やりたいことが見つからない人への市の取り組み状況を説明】

【各委員の意見等】

会 長：これからみなさまに自由にご意見をいただいきたいと思いますが、関心が低い人に対して、自主的な集まりへの講師の派遣とか4つございましたけれども、これをひとつずつだいたい15分くらいを目途に時間を取って検討してまいりたいと思います。まずは市民等の自主的な集まりへの講師の派遣ということから議論を進めてまいりたいと思います。色々情報を発信するんだけど、関心の低い人に情報を提供したいと思うんだけど、関心の低い人は見ないと。関心の高い人だけが見るといったようなジレンマを抱えているかと思います。そんな意味で非常に優しいようで難しい、具体的なようで抽象的なこのテーマでありますけれども、何とか色々とお考えをお聞かせいただければと思います。それではまず、市民等の自主的な集まりへの講師の派遣ということで、資料として対象への配慮、事業の所感とかがあります。申込者とは事前に話をして希望にあった講座内容とするよう配慮していると。このように書いてありますけれども事前に話をするとは言って、どんな話の仕方をしているんだと。希望にあった講座内容となるように配慮しているって

言うけれども、どのようにして希望に合うようなテーマを見つけてるんだとか、そんな細かなことが今回重要になってこようかと思imasので、どうぞ細かなこと、具体的なこと、抽象的なこと、色々取り混ぜてご意見をいただきたいと思imas。それではまず、関心が低い人に対して市民等の自主的な集まりへの講師の派遣をこんな形でやっているけれども、一体どうしたらいいのか、現状はどうかとか質問も含めて、色んなご意見をいただければと思imasが、いかがでしょうか。

委員：質問なんですけども、リードマン派遣事業は実績が11回派遣と、ここにありまして、それで学校・会社・町内会・団体などに対してっていう事ですけども、この11回の派遣は具体的にどこに派遣されたかっていうのを教えていただければ。

#### 【事務局説明】

委員：学校関係がやっぱり実際多かったっていうことですね。

委員：関心が高い人、低い人っていうのは、参加している人は当然関心が高いんだと。じゃあ、低い人っていうのはどう見るかっていうことなんですけど、単純にその情報が届いてないから来ないんだと思うんです。講師を派遣すると、自分の実績を語る人が多いんですよね。そうじゃなくて、やはり対話式で参加された方に直接、あなたのお考えはどうなんですかっていうことを問いかけする形でのセミナーっていうか、講演の仕方に切り替えることによって会場が非常に盛り上がるという、そういった形に持っていかないと。一方的に進めちゃうとやっぱり話の内容が抜けちゃいますので、やっぱり講師の頼み方も少しは研究されたほうがいいんじゃないかなと。

委員：出前講座とかは話を聞きたいなと思imasが、人数が集まらないと呼べないところがありますので、動画配信してくれたらいいのになって思うことはたまにあります。その動画だけで完結してもいいですし、それを入り口にして、その講師のお話を聞きたいなということで派遣につながるようなら、例えば、この情報支援っていうところにもつながってくる

のかなと思うことはあります。

委員：関心の低い人とかやりたいことが見つからない人に、どういうふうにしてこのまちづくりに興味を持ってもらうかというところだと思うので、多分こういう制度があるよという紹介の前に、まちづくりって何なんだろうっていうことだと思えます。例えば、こういうセミナーやって、すごい難しいことを聞いて、私もあそこまでやらなきゃいけないのかとかではなくて、もっと簡単な、こういうこともまちづくりなんだよとか、実はもう自分でやってることがまちづくりに参加していたとかっていうことの気付きとかを分かってもらうのが第一歩で、実際にまちづくりを実践してる人の事例の紹介、1%システムの事業でやってる人たちとか、様々あると思うので。そしてそれプラス、それを応援するための市でやってる制度はこういうのがあるので、利用してくださいと。やっとそこで制度の紹介が出てくるのかなと思ってました。それで、そのためにはやっぱり、もちろんこういう継続したひとつひとつの手法っていうのはどれも必要だし、人数が少ないからうんぬんということではなくて継続してやっていければいいかなと思います。一番大事なものは、その情報を今みたいな形でぽつんぽつんではなく、まとめて継続して発信していくっていうことが大事かなと感じてました。あとは、どうしても一般の人たちに広くどうぞっていう広報でやるとなかなか参加しにくいということであれば、最近高齢化とかもありますし、町会の活動とかもなかなか難しいっていうこともあると思うので、発信する先をたまに、市内の事業所とか、企業とかにですね、たくさんあるので。事業所自体ももちろん地域の一員でもありますし、そこで働いてる従業員の方々は地域に帰ればその地域住民ということなので。事業所自体の活動として、最近、社会貢献とか地域貢献とかっていうのも一生懸命やらなきゃと思ってて、大企業とかは自分たちでやってるでしょうけども、中小とかのところはやりたいけど何やっていいかわからないというところがあるかと思うので、そういうところに情報を発信して行政のほうでも様々な事例紹介とか、もしくは相談窓口とか、場合によっては地域とのマッチングのお手伝いとかっていうところまでやっていければ、少し裾野が広がるという意味では、いいのかなと。もちろん企業自体もそうですし、そこで企業の取り組みとして従業員が地域の中で様々な活動をするのを奨励

するような取り組みを、市側が応援しますよみたいな姿勢というか、市でいっぱい情報提供とか応援するので、みんなでまちづくりしませんかみたいな応援宣言的なものとかを入れていくと企業としても受け入れやすいのかなと感じてました。

委員：私も同様に感じていて、人材育成ってなった時に、その具体策が講師派遣で留まっていいいのかっていう疑問を感じました。こちらが提供しているもので、これならやってみたいっていうふうに思ってもらえるものでアプローチしてもらっている、提供されるものに呼応するやり方もあると思うんですけれども、一方で、まちづくりって漠然と言ってもなかなかわからなくて、例えば、あそこに高齢者の人と独居老人の人がいるんだけれども、それに関わっていくようなやり方が出来ないかしらとか、それを地域で何とか出来ないかしらっていうような、自分たちの身の回りの暮らしの中で疑問に思ったり、何とか出来ないかって思っているものをくみ上げながら、「じゃあ、こうしてみたらどうか」っていうことを支援してくれたりだとか、それを実現させてくれるような仕組みっていうことも必要なんじゃないかっていうことでの、下からの支援っていうことだと思うんです。そういう意味では、具体的に考えますと、プログラムを提供することはもちろん大事だと思うんですけれども、それだけじゃなくて、そういう個別具体的な課題を引き出すとか、その引き出したことを実現させていくプロセスに寄り添うことが支援として必要で、それをするによって、住民自身が自分たちの課題に対して、乗り越えていく、ある意味力量形成をしていくと思うんですね。なので、そういう意味で、例えばエリア担当職員とか、そういう方たちが同じ目線に立ちながら、じゃあ、こういうこと一緒にやってみましょうかっていうふうに、ペアを組んでいくとか、そういうふうにして、漠然とやっただけじゃなくて、例えばキーパーソンを見つけていくとか、そういう動きに寄り添っていくっていうスタンスを職員に持ってもらっているようなことも必要なんじゃないかって思いました。

委員：人材育成っていうところで、リードマン派遣をどう増やしていくのかっていう課題に関しては、とりあえずリードマンを増やしたほうがいいのかあと。7人だとやっぱりどうしても少なくなってしまうのは仕方が

ないのかなっていうところと、あとは、やっぱり活躍の機会がないとまずいだろうと思うわけですね。今日お話があったのは、そもそも申し込みが少ないんだってという話なんだと思うんですけど、そうであれば、ちょっとリードマンの趣旨と少しずれるかもしれませんが、市のほうで人材育成に関する講座等を様々やっておられると思うので、そこで積極的にこのリードマンを活用していただいて、講師としてお話ししていただくっていうことであれば、活躍の機会も増えてリードマンの方々のやりがいもできるのかなっていうふうに思います。つまり、自主的になっていうところだけではなくて、市としてもどんどん活用したらよろしいんじゃないでしょうかっていうことです。

委員：市政懇談会とかの時に、地域の人たちは多分お金のかかるようなことばかりお願いしますって言うんじゃないかなと。PTAになった時はそうなんですけど、行政の人たちが来た時には、こうしてちょうだいとか、お金のかかるようなことばかり。でも、それをお金かけなくても私たちができるような、何か考えましようみたいなのをエリア担当の人たちと一緒に話し合っていくことが大切。そうすると、そういう話をするっていうこと自体がまちづくりになっていって、信頼関係ができれば、何かあった時には一言紙でやったりするよりも、信頼関係のある人たちに声をかけられれば、ちょっと忙しいけど行こうかなとか、お互い様だから今回行こうかなとか、そういう気持ちを持てる関係を作るのがまずはまちづくりだと思うんです。

委員：人材育成ってなると、今言ったようにリードマンの養成だとか、そういう具合に聞こえるわけですが、私はどちらかというに出前講座を利用しながらやっています。出前講座はどちらかというと一方的でないかなと思ってるんですよ。ですから、やったものをさっき言った動画で流せたり、それからその出前講座をやった後に、やってくれた人がまたフォローしてアドバイスしてくれたり、お互い情報を共有するということで、いくらかでもこの人材育成になるのかなと感じております。それからエリア担当の場合は、目的が出来るだけ地域に対して、地域の情報を吸い上げながら地域で勉強していただくっていうことですので、リードマンになれるんじゃないかなと思っていました。

委員：今でもアイデアポストってあるんですか？

事務局：あります。

委員：以前あれはよくパソコンで読ませてもらって、なかなかいいこと書いてるなって思うんだけど。ああいう形で、私のアイディアとか、私の意見って、各家庭から吸い上げる方法もひとつの案だなと思うんです。

会長：次にフォーラムを開催してるんだけど、こういうフォーラムの開催でいいんだろうか、もっと関心を持ってもらったり、関心の薄い人がまちに役立つようなことをやっていくきっかけとして、もっと効果的になるようなフォーラムの開催の仕方はないかというようなことでご意見をいただければと思います。

委員：やっぱりテーマだと思うんですね。テーマが良くないと参加してくれないっていうのがあるのかなと感じてます。こないだ、町会で担い手塾をやったんですね。そうするとやっぱり関心あるのか、結構来てですね。

会長：良いテーマが見つければよいということですね。

委員：何かイベントする時に、それぞれ頑張ってる団体が市内にたくさんあると思うんです。その人たちに関係のある人たちは横のつながりを持ってやらないと、やるほうも忙しいし、行くほうも忙しいというか、行けない時がある。食だったら、ヒロロで食育フェスティバルをやって、市内の大学とか関係のある市の部署でも来るんですけど、関係のあるところは、例えば食とか、税金とか、そういうふうに、まとめて1年間でちゃんとわかるっていうか、そういうのがあれば、もう少し行く人も行きやすいし、やる人も自分一人だけよりも他の人とやったほうが効果が大きいし、来た人が喜ぶようなものができるのではないかなって。その横のつながりをつけるのがまた大変なところではあるんですけど、そうやっていけばいいんじゃないかなって。

委員：2つ大きくあるんですけれども、ひとつはフォーラムの開催のところのやり方で、ディスカッションしましょうってなるとかなり拒絶反応もあるっていう。じゃあ、いろんな人たちの意見聞きましょうってなると登壇する人が多くてディスカッションにならないっていう状況もあるので、そういう1回の作り方っていうのも、もう少し考えればいいのについて。交流の時間をきちんととるっていうようなことを組み立てとしてもっと考える必要があるんじゃないかっていうふうに思うのと、もうひとつは、そういう場で交流できたとしても、そこで終わっちゃうんですよね。だから、フォーラムやりましたで終わるのではなくて、フォーラムの後こういうことができたらいいなっていうような次の目的を設定した上で、フォーラムを作っていくっていうことが必要なんじゃないかっていうのが1点目です。もう一つは、所管のところに、「タイトルなど分かりやすいようにする」ってあるんですけれども、これは、両方の意見があると思うんですが、弘前でとなると、地元を愛し、地元を良くするっていう意味で、津軽弁を使うタイトルが結構あって、これはひとつのキャラクターとして面白いと思うんですけれども、一方で、例えば移住者とか、Uターン者とか、大学生たちからしてみると、津軽弁にするとまたこれを続けるのかっていうふうに思うようなところもあって、そういう意味で、ニュートラルに普通の言葉を使って分かりやすくするっていう視点も持ちつつ、どちらを選ぶかっていうことを考える必要もあるんじゃないかって思っていました。

会長：この休憩時間に飲食コーナーとかっていうのが2回ほど出てるんですが、効果はどうなんです？ どういう趣旨でやってるんですか？

事務局：そのコーナーにみんな集まるわけですよ。そうすれば、その場で会話とかがありますし、講師の人とかもそこに行って飲食するというのもあるので、そこで雰囲気はよくなって、連絡先を交換したりとか。

会長：そういうことを考えてるわけですね。実際、これがあって、あとにつながって、名刺交換して動き出したとか。

事務局：そういう場面も実際あります。だけど、食べ物とかってなかなか用意で

きないので、市役所として。なので、それ以外でそういう効果があるような何かがあればっていうのはあるんですけども。

委員：例えば、市民ボランティア交流まつりなんかでは、弘前市内には120団体ぐらいボランティア団体があるらしいんです。登録されてるのは80団体ぐらいらしいんですけども、何やっても、横のつながり難しいんですよ。仮に次のステップとして意見をまとめて何かをやりましょうっていう時に、じゃあ、誰が担当するんですかと。そこが非常に難しいんですよ。みんな尻込みするわけですよ。ただし、事業と結びついてる人がいるとすれば、じゃあ、私がやりましょうって手を挙げてくださるんです。そういう場合には非常に効果的に進みます。あくまでビジネス的に進めますので。だから、そこを単に一般の方、興味あるからっていう形では進まない。やっぱり事業と、どなたかその中にそれに関連する事業を営んでる人がいれば、案外と継続性があるんじゃないかなと思います。

会長：全体的にそうだと思うんだけど、市としても案外やりっぱなしが多いんじゃないんですか？市の行政のひとつの仕組みとして評価が入ってますよね。だけれども、言葉だけになっていて実際評価がされてないんじゃないかな。つまり、自分たちのこのフォーラムの狙いはこうで、今まで来なかった人に来てもらうためにこれはやるんだと。そして実際やってみたら、知ってる人ばかりで知らない人はこの人だけだったと。一体どこがだめだったんだろうと、そういうことをきちんとやってるんだろうかっていう疑問はありますよね。だから、市としてそういうのをひとつずつ、きちんとやるのが大事なんじゃないかと。我々第三者が評価するんじゃなくて、各部署自体が、大変だけれども自分たちのやった事業は本当に目的がはっきりしていたのかとか、やった結果どうだったんだろうとか、そういうふうに評価していくことが大事。そういう形で、じゃあ来年はこうやろうよ、ああやろうよってやっていけば、発展していくはずなんだけど、発展ってあまりないじゃないですか。同じことの繰り返しが多いと思うんだよね。それは評価してないってことだと思うんだよね。そういうことが必要じゃないかなって思いましたね。それでは、次のキャンペーンはいかがでしょうか。



委員：これは今までにもここの審議会で出てたことですが、市がどうやって動いているかっていう情報が届かないといけない。それがまず前提で、関わろうとか、意識を持つようになるかっていうことが出てくると思うので、そういう意味では、町会に入る前に町会の情報を知っているとか、市がどうやって動いているかってことを知っているっていうことは大前提だと思うから、広報の毎戸配布っていうのが必要だと思います。

会長：この毎戸配布っていうのは、町内会にも入っていないような人にも、弘前市に住んでる人、できればみんなに渡るようになってことですね。

委員：このキャンペーンはですね、目的が先になっちゃって。町会に加入させるんだという目的が先に、先入観が入っちゃって。そうではなくて、町会っていうのはこういうもんだよ、だからこうだよということから入っていくっていいのいいのかなと。どここの町会に入ってますかとか、入ってくださいとか、そっちがあまりにも強烈で、じゃあ町会っていうのは何をするのか、そしてそこで団体生活するのはどうなのかということから、わかってもらえればいいんだけど、むしろ入ってくださいってのが強いんじゃないかなと思ってました。

委員：この実際にやってるキャンペーンは市役所の中でやるわけですね。ということは要するに市役所に来た人ですね。

事務局：異動の手続きに来た人を捕まえるっていう。

委員：異動に来た人と言っても、その異動の手続きをしない人もいっぱいいますよね。一番知って欲しい人は、異動の手続きも何もしないから市役所に来ないわけですよ。だからむしろ、不特定多数というか、例えば、全然違うカルチャアロードだとか食と産業まつりとか、全然違う場所でその活動をやるような試みもしてみる必要があるのかなと。

委員：そもそもほとんど関心がないような人たちをどうするかって話なんですよね。そういう人たちに、こういうところに参加してくださいとか言ってもそもそも難しいと思うので、完全に別のテーマでもいいと思う

んですよね。例えば防災なんかだと、キャンプしてたらいつの間にか防災に関する知識も学んじやってたとか、地域を楽しく歩いてたりしたら、いつの間にか地域の危険な場所についても学んだみたいな形で、何でもいいので参加してもらって、そこで、ちなみに町会っていうのがあるんですよみたいな形で、楽しく参加してもらってということが大事なのかなって思ったりします。そうすると広報も結構大事になってくるのかなって思います。

委員：まさしくこれがまちづくりのひとつだと思うのは、今から13年くらい前かな、弘前の条例の中でりんごを食べる日ってのがあるんですよ。非常にテーマがいいわけですけども、果たしてそれがこのまちづくりに貢献されているのかって言うと、今全く、無でしょ。全然その啓発もない、また市民もあまり関心もない、りんごも食べてない、そういうふうなことが今現在、何も話になってないわけですよ。それがやっぱりまちづくりの原点にあったのかなと思うんだけど、刷新がされてないってというのは非常に残念だなと思うので、そういうものをやっぱりこれからどうしていくのかということもひとつのテーマでもあるのかなと思ってました。

会長：そういうことを通して弘前を思い出すみたいなことですよ。では、もうひとつのテーマ、各種媒体による活動事例の紹介はいかがでしょう。

委員：この6ページの所感のところ、「関心が低い人は関心がある人に比べ自ら情報を求めていないと考えられるので」ってあるけど、情報を求めていないのではなくて、むしろ、情報が伝わっていないんじゃないかなというほうが強いような気がするんだけど。今まではその手段そのものが、やっぱり限定的であってスポット的に短い時間の中で伝えるから、みんな頭の中に入ってないと思うんです。新聞で出したとしても、文字だから見逃すこともあるし、放送で言えば聞きもらすことがあるし。じゃあ、どういった手段がいいのかと。やっぱり町会を上手く利用するしかないんじゃないかなと。

委員：私も町会に回覧出してますけども、市のものを自分たちの町会のものに

して出してるんです。身近なところからの情報のほうがわからない人にも入りやすいのかなと。例えば、交通安全を今やってますから。秋の交通安全運動ありますよと、そういうことは書いていないんです。私の町会が交通安全運動をやりますからこれこれ町会で守ってくださいよとか、近場の人を書いたような広報を出すで見ると、大きいところがやると「あー、あー、あー」っていう感じになるのかなと、そう思うんです。

委員：普通の市の広報以外に、1枚なんかつけて、ダイジェスト版みたいなやつをやってるっていうこと？

委員：私なりに作ってやってます。そうすると非常に分かりやすいっていうか、自分たちのところの担当者が作ってるから見るんですよ。

委員：町会ももちろんですけど、家に帰って疲れてそう見ない人もいるんで、先ほど言った事業所でも、そういうのを発信してくれたらなって思います。お家に帰って疲れちゃって、とかってありません？それよりは、事業所で今回市でこういうのやってるから、ちょっとみなさんもって、何となくしゃべってくれれば、ちょっとは頭も働いてるうちなのだと思います。

会長：事業所には事業所にあった、情報の提供の仕方、学校には学校にあった、子どもたちが見るんだっていう、そういう工夫も必要ですよ。ただ事業所にお決まりの情報を提供すればいいんじゃないかと。

委員：今の情報に関していうと、伝えるっていうところから、伝わるっていうところが大事になってくると思うんですけど、地域だとかその活動に関心を持たない人はやっぱり右から左に抜けちゃうと思うんですよ。じゃあ、どうすれば関心を持つのかっていうと、先ほども町会の話でありましたけれど、けっこう小さな関係性で話が伝わると、関心を持つのかなって思うので、それぞれの団体の関係の人たちが自分の範囲の、小さな範囲に情報を伝えてくっていう、結局、そういうち密なことでは伝わらないのかなって思ったりもしました。

会 長：どうでしたら伝わるかっていう、そのレベルに頭の焦点をちょっと移して、伝わるためにはどういうやり方をやったらいいかっていうのがこれからの課題だよね。

委 員：最後の情報支援なんですけど、まちづくりの活動って市が関わって情報発信しているものだけじゃないですよ。市民が地域に対して関心を持って動き出すうねりを何とか作っていきたいっていうことであれば、その発信ってというのが、もちろん市から、いかにそれを出すかっていうことも必要だと思うし、出し方としてもいろんなツールを使って出すっていうことも、もちろん必要だと思うんですけど、一緒にやりましょうよっていうところから巻き込まれることもすごいあると思うんですよ。そういう意味では、市側の情報支援として、市がツールを提供するっていうだけじゃなくて、実際にやっている人たちに仲間増やしてねっていう支援の仕方というか、声掛けというか、ファシリテートをしていくっていうことも必要なんじゃないかと。そうすることで、要するに、市からやってねじゃなくて、やってる人から一緒にやりましょうよっていうところで、手を取り合っていける関係性を作っていくことが、市としても力になることなんじゃないのかなと思いました。だから、口コミをやる。ここだけの話なんだけどっていうのが一番広がったりするじゃないですか。なので、そういうような支援の仕方っていうのもあり得るんじゃないかなと。

委 員：自分たちで研修したものを地域の人たちに伝えるってというのが私たちの活動なんですけど、それをする時に市の人が上手く私たちの手助けしてくれればいいなって日頃から思ってるんですけど。やろうってしてる時に、ちょっと手伝って支援してくれますかって言った時に、今忙しいからって言われると、とてもやる気がなくなるのです。地域の人たちが、やっぱり、地域の人たちを巻き込んでいくのが一番だと思うので、その時に相談には乗ってほしいなと思います。

委 員：災害があつたりすると、意外とみんな協力するのね。参加してくれるし、理解示してくれるんですよ。だからやはり、自分に直接プラスマイナスのものがあれば、協力してくれると思うのね。

会 長：まちづくりっていう言葉が非常に短い言葉で、簡単に上手くね、例えば、住みたいまち、住んでよかったと思えるまちをみんなで作ろうよって、そこへ繋がるのが何でもまちづくりだよと。そんな短い言葉で作ればいいんだけどね。そんなスローガンが作ればいい。

委 員：やっぱり、地域で動く人が高齢化してるっていうのは、若い人の参加が課題。町会の地道な活動はもちろんずっと継続してやっていかなければいけないんですけども、若い人は多分、日中は職場にいるので、企業とか、業種として全く違うほうから入って行って、そういう人たちに情報を持って行って、その企業の援助も受けながら、その人たちが地域で活動できるような仕組みみたいなものまでもっていければいいかなと。

会 長：企業をひとつ大きなターゲットにしてね。企業や事業所を通していろいろな情報を流していくっていうことに、ひとつ焦点をあてて重点的な課題にしてもいいかもしれませんね。

委 員：地域では、エリア担当さんがいるわけですから、その方たちには、やはり地域に情報を流してもらわなきゃいけないと思うんですね。地域の会議なんかに出ましても、担当者のほうからそういった情報っていうのが流れてこない現状にあるわけです。流すだけじゃなくて、その地域の方たちが一体どういったふうに考えているのかっていうところを吸い上げてくれなきゃいけないだろうと思うんです。その役割があるんじゃないのかなって思うんですね。それで、それを踏まえて市のほうでは、どういったふうにしていくのか、例えば先ほどの、フォーラムにしてもそうなんです、年間の流れを通して、何回かを通して、ひとつのテーマをずっと継続的にやっていくといったようなことをしていかないといけないんじゃないのかな。1回のみであれば、立ち消えになってしまうというようなことも考えられるわけですから。年間を通して、長いスパンでやっていくということは絶対必要じゃないかと思うんです。そのためにも、市のエリアの方たちが情報を地域に流してくれて、地域の情報も吸い上げて、持ち帰ってもらうと。そして、全体的に何が必要なのか、どういったふうにしていくのかというところを長いスパンで

っと継続していくような。そういうことでやはり、事業所っていうのも絶対大事だと思うんですね。大企業のほかに、小規模な事業所、これをもっともっと巻き込んでいかなきゃいけない。そのためには、どういった方向からそこへ突っ込んでいこうか、情報を流してやろうかという、そののところがもっともっと検討していかなきゃいけない。

会 長：これからの課題で、我々のひとつのテーマの柱にすればいいですね。じゃあ、たくさんご意見いただきましたので、今日はこれで事務局にお返しします。

3 事務連絡

4 閉会